

# 平成31年度 授業改善推進プラン

## 第1学年 音楽科

### 1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

### 2 生徒の現状<定期考査等からの分析>

- ・発声練習に大変意欲的に取り組むことができる。集団の中でしっかり声を出せる雰囲気ができている中で、効率のよい旋律（パート）練習を行うことにつなげていきたい。そこから、全体でのハーモニー練習・曲作りへつなげていけるようにする。
- ・まだ変声期を迎えていない生徒が多い。可能な音域・出しやすい音域でのハーモニーの美しさを味わわせる体験が重要である。
- ・鑑賞の授業では、感じたことを文章でまとめることが難しい生徒が多いが、ワークシートや解説の工夫でポイントを理解させたい。

### 3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

- ・授業で学んだことがどのように表現に生かされ、どのように評価されていくのかを生徒がしっかり理解できるように進めていく。
- ・生徒自身が変化を感じられるよう、表現の工夫の仕方を具体的に指導し、主体的に表現しようとする姿勢をさらに育てていく。
- ・合唱コンクール以外にも学年での合唱表現活動を行い、2・3年次にもつなげられるよう機会を設けていきたい。
- ・楽譜についての知識の定着には課題が多く見られるため、歌唱教材での解説、さらにスモールステップでの解説、授業での反復により基礎基本の定着を図る。

### 4 具体的な授業改善策

- ・一人一人が楽しく声を出すこと、それができる雰囲気づくりのため、授業の冒頭では曲の表現にこだわらずクラスの状態に合った活動を取り入れる。
- ・混声三部のハーモニーの美しさをしっかり味わわせ、表現意欲につなげるために、曲中の音によるハーモニー練習を重点的に行う。
- ・指揮練習・指導を工夫して行い、拍子感を養っていく。
- ・本時のめあてをもとに、2人組からグループでの意見共有、全体共有という深め合いを通して混声合唱の表現の幅を広げていく。
- ・ワークシートの改善を図り、感じたことや考えたことを記述し伝えられるよう工夫する。

## 第2学年 音楽科

### 1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な表現力の定着、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一単位時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

### 2 生徒の現状<定期考査等からの分析>

- ・意欲的に歌う生徒が多く、クラスで混声三部の美しいハーモニーをつくることができている。表現のポイントを生徒自身が意識し、力強いハーモニーにしていくことが課題である。
- ・活動の目的を意識させ、生徒が表現の変化を実感できる授業から、主体的な表現活動につなげていく。
- ・鑑賞の授業では感じたことを文章でまとめることが難しい生徒が多いが、ワークシートや解説の工夫でポイントを理解させたい。

### 3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

- ・楽しみながらしっかり声を出することができるクラスの雰囲気づくりが非常に重要だと考える。そのための表現活動・授業冒頭での発声練習・ハーモニー練習指導の工夫をしていく。
- ・パートの役割の理解、表現方法の工夫など、一曲の中でも場面ごとに目的をもって表現に活かせるような活動をする。
- ・時間の有効活用のため、音取りの段階においてはテンポを速めることで繰り返し行い、パート別CDの活用と並行していく。
- ・パート別練習における自主的な取組、課題解決能力を育成していく。

### 4 具体的な授業改善策

- ・混声三部の美しさをしっかり味わせた上で混声四部のハーモニーづくりに移行させるように、曲中の音によるハーモニー練習を繰り返し行う。
- ・響きの違いの認識、またどのメンバーであっても安心して声をだせる環境づくりのため歌う位置の固定化を避け、目的をもって隊形を工夫する。
- ・混声四部の響きの体感から和声感を、指揮の活動から拍子感を育てていく。
- ・音符・楽譜の理解のために、合唱曲の楽譜を使ってスモールステップの解説により理解につなげる。
- ・ワークシートの改善を図り、感じたことや考えたことを記述し伝えられるよう工夫する。
- ・本時のめあてをもとに、2人組からグループでの意見共有、全体共有という深め合いを通して混声合唱の表現の幅を広げていく。
- ・指揮者、パートリーダーの生徒の育成のために、具体的な役割をもたせる等の工夫をし、クラス練習で活かせるように指導する。

## 第3学年 音楽科

### 1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な表現力の定着、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一単位時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

### 2 生徒の現状<定期考査等からの分析>

- ・混声四部の美しいハーモニーをクラスでつくることはほぼできている。クラスが一体となった力強いハーモニーにしていくこと、パートバランスのよい響きづくりが大きな課題である。
- ・活動の目的を意識させ、生徒自身が表現の変化を感じられる授業を通して、主体的な表現活動につなげていきたい。
- ・鑑賞の授業では感じたことを文章でまとめることが難しい生徒が多いが、ワークシートや解説の工夫でポイントを理解させたい。

### 3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

- ・安心して声を出すことができるクラスの雰囲気づくり、意欲的に取り組む姿勢の育成が非常に重要だと考える。そのための授業冒頭での発声練習・ハーモニー練習指導の工夫をしていく。
- ・音域を広げること、ファルセットでの発声、声量を増す練習、頭声発声練習など、目的をもって曲の表現で活かせるような活動をする。
- ・時間の有効活用のため、音取りの段階においてはテンポを速めることで繰り返し行い、パート別CDの活用と並行していく。
- ・パート別練習における自主的な取組、パートリーダーを中心とする課題解決能力を育成していく。

### 4 具体的な授業改善策

- ・授業の冒頭で、集中力を高められるよう姿勢・発声指導を必ず行う。
- ・曲中のハーモニーを使って練習を行うことで、混声四部の美しさをしっかり味わわせ、響きを体感させた上で曲づくりに入っていく。
- ・響きの違いの認識、またどのメンバーであっても安心して声を出せる環境づくりのため歌う位置の固定化を避け、目的をもって隊形を工夫する。
- ・鑑賞の授業では、解説内容の精査・ワークシートの工夫を図り、短時間で総合芸術の素晴らしさを体感できるよう進めていく。
- ・指揮者、パートリーダーの生徒の育成のために、具体的な役割をもたせる等の工夫をし、クラス練習で活かせるように指導する。
- ・本時のめあてをもとに、2人組からグループでの意見共有、全体共有という深め合いを通して混声合唱の表現の幅を広げていく。
- ・合唱コンクール後も学年合唱の機会を設け、卒業式での学年合唱につながる活動を随時入れていく。